

まえがき

「ああ、今週もバタバタしててあまり進まなかった……」

「この書類、今日も手がつけられなかったなあ」

なぜ、日々の仕事はなかなか進んでいかないのだろうか？

仕事の山は、どうしてまったく小さくならないのだろうか？

原因は三つある。

- 二重、三重にデコードしている
- 見積もりのしかたを知らない
- いつも先送りしている

本書は、これら三つの原因に対して、一番と二番を解決し、三番目を半分くらい解決す

るための本である。

現在、非常に多くの仕事で、「頭の中」で進められるようになってきている。より多くの人が「**頭脳労働者**」化しているのである。

しかし、ほとんどの職場では、効率化が間違った方向に向かっている。例で考えてみよう。

15パズルという遊びがある。

4×4の16枚分の大きさに、15枚のピースが入っている。この**1枚分のすき間**があるからこそ、ピースが動かせ、パズルが成り立っている。

「あ、ここにすき間があるじゃないか！ もう1枚入れてしまえ」

これで、枚数が15↓16枚になり、効率は1/15
|| 6・7%アップしたように見える。この瞬間

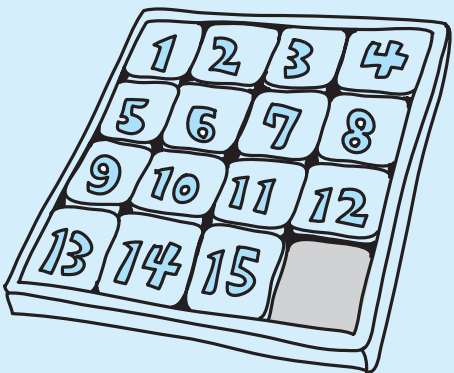


図1：15パズルは、すき間が重要

だけは。

多くの職場で（あるいは、個人単位で）起こっているのは、まさにこういうことである。「すぎ間」の重要さに気づかず、見た目の効率だけを考えて動いていくと、全体としての効率が下がってしまう。

仕事を詰め込まず、少し減らしてみよう。とたんに、あちこちがうまく回って、早くこなせるようになる。

しかし、仕事を「詰め込まない」なんて、そんなことができるのか？ 今より少しだけ早く、仕事が「進む」技術があれば、それは可能である。

仕事が進まない三つの原因「二重デコード」「見積もりができない」「いつも先送り」。これらの解決には、仕事の「ストーリー化」が重要となる。ストーリーとは、「モノゴトのつながり」と「時間軸」を組み合わせたものである。

モノゴトのつながり×時間軸＝ストーリー

本書では、そのストーリー化のために

- 徹底的に、情報を「再」利用せよ

- 記憶・計算ではなく、「創造」に集中せよ
 - 「メタ」見積もり力を身につけよ
- という三つの方法を説明する。

21世紀に活躍する頭脳労働のプロフェッショナルたちにとって、本書がたとえ断片なりとも役立てば幸いである。

梅津 信幸